

ホーム信州PTA!



県 P 通信

令和5年度 第2号

「楽しい子育て全国キャンペーン」

～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

第14回 長野県PTA三行詩コンクール 入賞作品

第14回長野県PTA三行詩コンクールが行われ、小学校部門1945点、中学校部門2002点、一般部門262点の中から、各部門5作品が入賞されました。受賞された皆様、おめでとうございます！

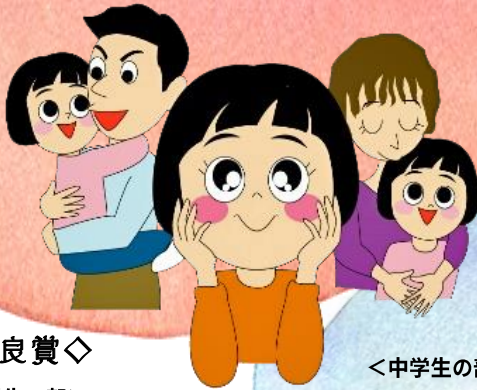
また、入賞15作品は日本PTA全国協議会の三行詩コンクールに推薦され、安曇野市立三郷小学校6年生の牧野咲菜さんの作品が【「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞】を受賞されました。おめでとうございます！

最優秀賞

(長野県PTA連合会長賞)

パパのだっこが好き
ママのぎゅーが好き
そんな私はもうすぐ10さい
まだまだ甘えていいですか？

畑中 萌彩さん
松本市立芳川小学校(4年)



◇優秀賞◇

(信州“教育の日”実行委員会会長賞)

部活の大会
「来るな」と言っても来てしまう
小声で応援 聞こえていたよ

金箱 湊人さん
佐久市立浅科中学校(2年)



心配すると「うるさいなー！！」
放っておくと「心配してよー！！」
丁度いいは難しいけど
この掛け合いが 丁度いい♡

星野 由佳さん
中川村立中川中学校(保護者)



◇優良賞◇

<小学生の部>

★おやつにももらったおかし
かぞくにわけたら小さくなった
でもみんなの幸せはおおきくなった
中島涼太郎さん
坂城町立坂城小学校(5年)

★大すきなばあばに
ギュッとするとねむくなる
ゆめの中でも話したい
堀内悠人さん
飯田市立松尾小学校(2年)

★いっしょに作ったたまごやき
今は1人で作れるよ
妹に、次は私が教えるばん
牧野咲菜さん
安曇野市立三郷小学校(6年)

★「いってらっしゃい」
見えなくなるまで手をふるかぞく
はずかしいけど うれしいよ
赤羽珠乃介さん
松本市立旭町小学校(2年)

<中学生の部>

★ありがとうの一言が
はずかしくて言葉に出せない
だからだまって 食器を洗う
高橋美優さん
佐久市立浅科中学校(3年)

★ならいごとの帰りの車
お母さんと
分かる分かるの共感会
恩田胡桃さん
飯田市立緑ヶ丘中学校(2年)

★「大丈夫あなたなら必ずできる」
と言ってくれたお母さんの言葉が
私の支えだ
山口瑠璃さん
松本市立丸ノ内中学校(3年)

★おばあちゃんは耳が遠い
だけど毎回しっかりきいてくれる
耳は遠いけど
心の距離は近くてあたたかいな
伊藤瑚々杏さん
松本市立明善中学校(3年)

<一般の部>

★「いってらっしゃい」 振り向きもせず
一所懸命している反抗期
大きくなった背中を信じている
藤森貴子さん/茅野市立永明中学校

★白球を追いつけてきた 君の最後の中体連
笑顔で拳を突き上げた
「あれ、俺からの誕プレだから。」
今日は夫の誕生日
忘れたくない6月10日
井出美穂さん/諏訪市立諏訪中学校

★おかえり！て言ってあげたいのに、
おかえり！をたくさん言わせてしまっ
てごめんね。
出来る限りの、ただいま！を
言わせてあげられるように
パパもママもがんばるね。
片桐美紀さん/中川村立中川中学校

★横断歩道 渡り終え
止まってくれた車に体を向け ありがとうのお礼
「えらいね」の言葉に「普通だよ」
そんな君が誇らしい
小林美由紀さん/木島平村立木島平小学校



広島大会

変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！
～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～
広島から全国へ



8月25・26日、広島県にて「日本PTA全国研究大会 広島大会」が開催されました。大会1日目は広島市を中心として8つの会場で分科会が設けられ、長野県PTA連合会の参加者44名はそれぞれ希望する分科会へ参加しました。2日目は広島県立総合体育館（広島グリーンアリーナ）で全体会が行われ、全国各地から参集したPTAの方々の熱意を感じながら、大人としての学びを深めてまいりました。

大会の内容の一部と感想をご紹介します。（レポート全文は県Pのホームページに掲載しています。ぜひお読みください）

PDFの場合はタップでリンク先へ！→



家庭教育

第1分科会

子供の力を引き出す家庭教育のあり方

～自己肯定感を高め、可能性にチャレンジする子供を育てるために～

基調講演

パネルディスカッション

「今、子どもを育てるといふこと」と題して、恵泉女学
園大学学長の 大日向雅美先生のお話を伺いました。

「子どもを育てるとは、①子どもを“人として”尊重すること
②親と共に生きること ③地域と共に生きることである」

大日向先生は、1970年代から子育てに悩み揺れる母親た
ちと関わってきました。その経験から、上から手を差し伸
べる「支援」ではなく、傾聴と理解（下に立って支える）
の心で「寄り添う」ことの大切さをお話しされました。

また「地域と共に生きること」とは、分かち合いの共生
社会へみんなで「子育て・子育ち」を支えることであると、
子育てひろばを運営する「NPO法人あい・ぽーとステー
ション」の取り組みを交えてお話しされました。

最後に「今の子どもたちは将来や未来について考えるこ
とが多いが、今を丁寧に生きること、目の前のことに対し
て一つひとつ大事に取り組むことが大切である。そして、社
会のみなを信じながらみんなで手を取り合い、まずは親
が幸せに生きてほしい」と語られました。その言葉が非常
に心に残っています。

①これからの変革の時代を生きる子どもたちに必要な力
とは

②子どもに自己肯定感を持たせる家庭教育のあり方
③行政その他による家庭教育支援の現状

について、討議されました。

子どもに必要な力として「どんな環境でも前向きに生き
る力」「自己を認識し選択していく力」「失敗してもあきら
めずに挑戦する力」などが挙げられました。

また、家庭教育は一人で悩んで行うものではなく、いろ
んなところに支援の輪があるのでその情報をキャッチし、
親が学んでいくことが大切であると、パネリストの方より
お話がありました。さまざまな立場からの意見があり、と
ても興味深く参考になりました。

大日向先生のお話、実践発表、パネリストの皆さんのお
話から家庭教育のヒントがたくさん得られました。この学
びをしっかりと持ち帰り生かしていきたいと思えます。

（長野市PTA連合会 副会長 小林優さん）

地域連携

第3分科会

学校教育と地域の連携をどう進めていくか ～子供の成長を地域と共に～

基調講演

実践発表

「地域とともにある学校ーシビックプライドによる架
橋ー」を演題に、広島修道大学教授の山川肖美氏よりお話
がありました。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）におい
て、保護者の学校への意識や地域の学校への関与と参画を
目指すなか、保護者も先生方や活動の協力者と平等な立場
で運営に参加し、そのつながりの中で仲間を増やしていく
ことが大切だと、山川氏はおっしゃっていました。

私は、演題にある『シビックプライド』という言葉を知
り初めて聞き「何のこと？」と思いました。

- ・都市に対する市民の誇り
- ・地域をよりよい場所にするために自分自身関わって
いるという自負心

これを『シビックプライド』というそうです。例として、
麻で有名な古市という街の話がされました。ある大学生が
古市の魅力を広めようと小学生と共に冊子を作ったところ、
1年後には「マップを作り、古市のよいところや面白いと
ころを散策しよう」と活動が広がり、そこに先生や保護者
も加わっていき、それを見ていた在住歴30～50年の住民た

ちが参加しはじめ、地域の3世代のつながりになったとい
うことです。

最後に山川氏がおっしゃったことは「皆で見つける！小
さく生んで皆で大きくする！」。その通りだと思い、聞き
入っていました。

「地域の中に学校を 学校の中に地域を」と題し、広島県
府中市コミュニティスクール連絡協議会、会長の立石克昭
氏による発表がありました。府中市明郷学園(小中一貫校)
では、キャリア教育の推進で地域企業が教員のサポートを
を行い、7、8年生で模擬会社を作り、生徒が経理、販売、
総務を分担してイベント等に参加しているそうです。

「大学生や先生はいずれ去っていくので“風”、地域や在
住者は“土”である。“風”と“土”で子どもたちを育ててい
くことがとても大切だ」その言葉が心に残りました。

私は、中学校のバレーボールに外部コーチとして15年間
携わっております。“土”として子どもたちを育み、よりよ
い地域連携ができるようにしていきたいです。

（木曾郡PTA連合会 会長 高橋龍輔さん）



学校教育

第2分科会

すべての子供たちの豊かな学びを実現するために ～様々な要因から学校に適應できない子供たちへの対応～

基調講演

「『不登校の子どもの気持ち』から考える、周囲の大人にできること」と題し、NPO法人 全国不登校新聞社 事務局の小熊広宣先生のお話を伺いました。

今の日本における不登校についての現状やその原因、不登校の気持ちや対策について、かなり濃い内容でした。

- ・令和4年度全国不登校者数：24万4940人
→9年連続で増加している
- ・不登校者の内訳：小学生8万1498人 中学生16万3442人
- ・不登校の原因は、先生(怖い、暴力)、いじめ(友達のこと)、身体の不調などたくさんある。
- ・多くの子どもは、なぜ不登校になってしまうのかうまく説明できないことがあり、きっかけが何か自分でもよくわかっていない。

💡子どもは親に対して「助けて」のサインを必ず送っているので、日頃からどんな些細な変化でもいいので子どものことを気にしてほしい。

〈3つの基本姿勢〉

- ①「今の子どもの気持ち」から考える
今がとてつらいんだと、気持ちを受けとめてほしい。
- ②対応は足し算ばかりではなく引き算もある
- ③正解はないけど不正解はある

💡成功談より失敗談を大切にすることが重要！

〈不登校経験者が語る三大NG対応とは〉

- ①家庭訪問 → 先生に会いたくない
- ②お手紙 → 精神的につらく、恥ずかしい
- ③不登校の原因 → 探さないでほしい

〈不登校時の対応～大人にできることは何か？〉

親だつてつらいのです。特に母親の場合は、子育てが失敗だと親族に言われたりする。同級生の子との比較や、マ

マ友に会わないように買い物なども遠くに行きがちになる。対応は「同じ経験をした親と話す」こと。不登校の会に参加したり、NPOなどの支援団体に相談したりする。

〈親にできることは何か？絶対やるべき5選〉

- ①子どもにとって安心する場所をつくる
- ②子どもの話は最後までちゃんと聴く
- ③「ほめる」ではなく「喜ぶ」
ほめることは上から目線の行為に感じてしまう場合もあるので、子どもが思春期になってくると難しい。
- ④「親がやってはいけないこと」をしない
学校に行つてほしいオーラを出す・学校の資料を見せる・同級生の話をする・子どもを理由に自分の好きな趣味をやめる
- ⑤「ヒマだな～」の言葉を見逃さないこと
子どもが動き出す際のサインのひとつ。家でゆっくり休んでいると、子どもが元気を取り戻していく過程で必ず「ヒマだな～」と言う。

小熊先生は最後に行われたパネルディスカッションのなかで、不登校の子どもをもつ親に対してのアドバイスとして「親の直感合っているから大事にしたほうがいい！親の願いは捨てる。親の願いは、子どもにとってはかなりのプレッシャーになる」と話されていました。

不登校がテーマの分科会でしたが、私自身も不登校を経験しているので、先生方の話に共感することがとても多くありました。また、当時の私は不登校の自分がかわいそうと思っていましたが、今振り返ると本当に辛かったのは母親だと思いました。

不登校になると普通の人より劣ってしまうと感じることもあるかもしれませんが、それをバネにして前に進む気持ちを常にもつことが大事だと考えさせられました。

(長野県PTA連合会 副会長 荒川博之さん)

防災教育

第6分科会

予期せぬ災害から大切な命を守るために ～今、できること・考えておくべきこと～

基調講演

最近のさまざまな災害は甚大化や広範囲に及ぶ傾向にあり、常に私たちの身近で起こり得ること、地域防災の重要性は議論されているが学校とPTAの役割として議論される機会が少ないこと、これが第6分科会に参加した理由です。

「学校で学ぶ知恵は、すべて防災で役立つ

- 一 親子で楽しく身につけ、地域を安全にする方法 一
講師 あんどうりす氏 (アウトドア防災ガイド)

基調講演では、防災の知識を学ぶというよりは、日常での少しの工夫の積み重ねが防災教育につながる、そのような印象を強く受けました。

- ・子どもが使う水着バッグは物を濡らさずに持ち運びができ、緊急避難時の貴重品入れに活用できる。
 - ・荷物をリュックに入れる際は、重いものを高い位置にすることで移動時の負担を大きく軽減できる。
- など、このような子どもたちにもわかりやすい簡単な工夫ばかりで、驚きの連続となりました。

パネルディスカッション



ご当地ゆるキャラたちも登場！

続いて行われたパネルディスカッションでは、西日本豪雨で被災した中学校においてPTAが行った活動と、その際に浮き彫りになった課題の紹介がありました。そのなかで印象的だった意見は次のことです。

- ・「多様性」は防災に大きく関わる
- ・妊娠初期の妊婦さんなど外見からは分からない人に気づく必要がある
- ・災害時でも子どもたちの居場所をつくる

特に災害時は学校が避難施設になることから、PTAが子どもたちに寄り添うことの重要性を痛感しました。

今回得た貴重な体験を多くのPTA役員に伝え、議論する機会を設けたいと思います。

(上小PTA連合会 会長 両角貴博さん)



人権教育

第4分科会

子供のかけがえのない命と尊厳を守る ～幸せに育つ子供の未来のために～

基調講演

「孤立と虐待のない街づくり ～傷つく子どもを支えるためにできること～」と題し、ジャーナリストの石川結貴氏が講演されました。

児童虐待をはじめとする子どもを取り巻く諸問題や、親が子どもを精神的に支配したり、親の期待に沿うように強制したりするような新しいタイプの虐待行為など、子どもたちを取り巻く環境が一層複雑化していることを学びました。

●現在の子どもたちの「つながり」は、学校や地域の友達のほかに“LINE”や“X(旧Twitter)”などのSNS、声で会話するトークアプリ等を使い、見知らぬ人もやりとりしている。相手からチップ(ポイント)をもらい、獲得数に応じてギフトカードと交換できる仕組みもあるなど、容易に性的虐待等につながってしまう環境が身近にある。このような子どもを取り巻く環境について、親の知識が追いつかないという問題点もある。

●経済的な不安定さ、家族や親族等との断絶、社会性への乏しさなどにより、社会的な「つながり」の機会を失う親も多い。周囲と「つながれない親」は、情報不足や支援の枠に押し込められたくないという抵抗感もあり、状況が危機的になるほどSOSを出せなくなるケースも多い。

●支援にあたって重要となるのは、想像力と行動力、そして突破力。まずは、親が子どもたちを取り巻く現状を正しく知り、地域や学校においていわゆる「迷惑な子・変わった子・困った子」とされている子に関心をもち、対応をしていく「支え」の基盤づくりが必要なのではないか、との課題提起がありました。

パネルディスカッション

子どもたちの尊厳を守り虐待被害等をなくすための取り組みについて、討議がされました。特に印象に残ったのは次のことです。

- ・子どものことは子どもに聞かねばわからない。忙しくても耳を傾ける習慣を常に心がける。
- ・子どもの話をまずは聴く。大人の視点で解釈したり、言い換えたりしないで、グッと我慢して聴く。その上で、解決方法を共に考える。
- ・子どものSOSを受け止めるためには、気持ちを素直に聴いて子どもの「今」を知る。子どもが安心できることがとても重要。
- ・子どもにとって「相手に伝わった」「自分の言葉で語れた」という実感が大切。うまく伝えられずに失敗するのを見届けてもいい。
- ・自分を大切に思えない子どもは他人も大切にできない。子どもの頃に“大切にされた”実感がある子は、将来自分の子どもに対しても大切にできる。こうした連鎖がよりよい家庭環境や子どもの育成環境を築いていく。
- ・子どもも地域をつくるパートナーとして認識する。
- ・子どもを虐待や社会困難から守るためには、子どもと親が「共通の課題認識」をもつことが大切。子どもが知っていることに親も関心をもつことが必要。

個々の親が「子どもが安心して話ができる環境」をつくっていくこと、それが最重要だと感じました。それを地域や学校へと広げ、社会全体で子どもたちに関心をもって耳を傾け、子どもたちを社会形成のパートナーとして守り育てていくことの大切さを、改めて実感しました。

(上高井郡市PTA連合会 会長 池上健一さん)

広報活動

第5分科会

PTAの活性化を図る効果的な広報活動の有り方 ～思いや考えを的確に、効果的に伝えるために～

基調講演

「思いや考えを伝えるための方法 ～結果を伴う広報活動のために～」と題し、株式会社インフレックス代表取締役の道佛(どうぶつ)一郎氏が講演されました。

道佛氏は広島ホームテレビに従事後、映像や印刷物などの制作を手掛ける会社を興しました。お子さんの学校のPTA役員として、広報に携わったこともあるそうです。その経験から、人の心を惹きつける伝え方について話されました。

【広報の考え方】

- ①PTAが広報活動を行う目的
 - ・「効果的」に思いや考えを伝える
 - ・「効果的」に活動を記録として残す
- ②一度では伝わらない
 - ・人は3回目から心が動くので何度も伝えることが大切
 - ・心が動く過程は人によって段階があるのでさまざまなアプローチが必要
- ③全部伝える必要はない

《理由》

 - ・反復継続して発信するため
 - ・場面に応じた広報を行うため

- ・目的達成には不必要であるため
- ・全てを伝えても理解してもらえないため
- ・短いメッセージのほうが効果的であるため

④何を主題として伝えるか

- 広報の手段/目的
- ・学校行事やPTA活動の紹介/活動への理解
 - ・活動予定を知らせる/積極的な参加を促す
 - ・実績の記録/今後の活動の参考にする
 - ・コンクール入賞/伝える技術とモチベーションの向上

【広報紙の作り方】

- 一番伝えたいことを大きく載せる。
- 日常で目にするチラシや広報紙を真似してみる。
- Webサイトやソフトのテンプレート等を参考にしたり、活用したりする。(Pinterest、Canva等)
- 言葉や文字の表記に注意する。

私は単P時代も含めて長年広報に携わってきましたが、再認識することも多く、大きな学びとなりました。子どもに直接関わる活動ではありませんが、家庭教育や知識教養の向上のため、よりよい情報をお届けしていきたいです。

(長野県PTA連合会 情報発信部 森山奈々)



日本PTA
担当

特別第1分科会

世界で活躍する人材を育むために ～これからの国際化に対応できる力とは～

基調講演

「いつか世界を変える力になる ～求む！好奇心～」と題し、独立行政法人 国際協力機構(JICA中国)所長の村岡啓道氏より基調講演が行われました。

国際貢献を担うJICAの存在は知っていましたが、実際の働きやその思いなどをより深く学ぶことができました。

「日本国内にもさまざまな課題があるなかで、なぜ外国を支援しなければならないのか」という問いに対しては、「人道的理由」「恩返しの側面」「共創」があるとのこと。戦後荒廃した日本が経済大国となった背後には、多くの外国からの経済的支援があったこと。そして、それらによって高速道路や新幹線、あるいは学校給食なども支えられてきたことが語られました。今大会の会場が被爆地である広島だということを見ると、より価値のある話となりました。

「世界で活躍する人材」として特に強調されていたのは、以下の4つの力でした。

①知る力 ②聴く力 ③提案する力 ④実行する力

「子どもたちの可能性は無限大であり、その方向性を一方的に決めつけるのではなく、子ども自身が主体的かつ積極的に物事を体験し、知ることを通して、自分自身の中にある《何がしたいか》を見つけてほしい。そうして見つけたものを大事にして、それを実現すべく専門性を深めていくことが大切だ」と、メッセージを送っていました。

パネルディスカッション

村岡啓道氏(JICA中国・所長)、横田健司氏(AIC World College・総校長)、東川勝哉氏(日本PTA全国協議会・元会長)の3氏によって行われました。

世界で活躍するために子どもたちに必要な力について、「あくまで英語(言語)はツールであり、それが上手に使えることが目的ではない。むしろ世界で活躍するためには《自分が何者であるのか》を自分自身が理解し、それを表現できることが大切」だと、まとめられました。

また、日本と世界の境目が薄くなっている現代において「グローバルとローカルをどう繋げていくか」「自分自身のアイデンティティ(国・言語・文化・風習等含む)を正しく理解しているか」これができてこそ、国際人として世界で活躍できるのだと、お話がありました。

現在大学2年生になった息子とは、彼が小5～中1の間に「父子旅」と称して14カ国を旅しました。親子で陸路国境を渡り、少々の危険を感じながらも、リュックサックを背負って旅をしたことは大きな財産となっています。

海外の人に比べ日本人はおとなしく、自己表現が苦手な人が多い印象です。しかし、海外に出たときに自分自身を正しく語れて、相手のアイデンティティも尊重することができる。そのような人材が今後ますます必要であり、また、教育としてそのような人材を育てていかなければならないと思いました。

(長野県PTA連合会 副会長 城村義人さん)

文部科学省
協力

特別第2分科会

教育の情報化の推進

～これからの情報化社会に生きる子供たちに必要なもの～

基調講演

「AI・ロボット時代を生き抜く情報活用能力をどう育むか ～家庭で『情報のリスクに対応する力』を育成するための3つのポイント～」と題して、静岡大学教育学部学校教育講座 准教授の塩田真吾先生が講演されました。

【情報のリスクに対応する力を育成するポイント】

💡ポイント① さまざまなトラブルへの自覚を促す

《自撮りトラブルへの自覚》

はじめに、自撮り写真を送ってしまいそうなシチュエーションを想像させます。(例:好きな先輩から「顔は出さなくていいから下着の写真を送って」と言われた)

そして「どんな人に、どのように」送ってしまう可能性があるかを「場面強制想像法」を用いてイメージしていきます。同時に断り方も考えさせます。

未熟な子どもたちは好奇心で送ってしまう恐れがありますが、保護者と一緒に考えることで断り方も学んでいきます。

💡ポイント② リスクをグラデーションで考えさせる

SNS上で自身の情報を、どこまで教えたり公開したりしていいのか、相手の特徴(名前や職業、家族構成、趣味など)から想像して考え、答えを導き出します。

情報を教えたことによりどんな危険が潜んでいるかなどを同時に考え、判断する能力も養います。

💡ポイント③ 時間管理に関する自律の力を育てる

24時間のタイムマネジメントの力を高めるということです。タイムマネジメントとは、目標やタスクを明確にして優先順位やスケジュールを設定し、実行と検証を繰り返すことをいいます。タイムマネジメントを行うことで自律心が芽生えます。

子どもたちには好きなことや夢中になれることを広げる行動、環境、感情などさまざまな体験をさせ、保護者も一緒に学ぶことが大切だと、講演を聴いて思いました。

パネルディスカッション

フリートークに近い内容で、我々参加者からも建設的な意見や質問が活発に飛び交いました。「学びの変革」において、デジタル端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムのひとつです。ICT学習の推進は、今後Society5.0時代を生きる子どもたちにとって必要不可欠なものです。多様化する社会を力強く生き抜く子どもたちのために学校や行政、地域等と力を合わせ、子どもたちと保護者が共に学び共に成長できれば幸せなことではないでしょうか。

※ Society5.0: 仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会

PTA活動では「子どもたちと保護者がひとつでも多くのことを体験し、共に学び成長すること」を意識して行動するように心がけております。広島大会を通じて、学びの機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

(長野市PTA連合会 副会長 江口康人さん)



全体会

変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！
～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～ 広島から全国へ

記念講演

「心のトリセツ ～『逃げ癖』を『意欲』に変える脳科学～」を演題にした、人工知能研究者の黒川伊保子氏による講演を拝聴させていただきました。

黒川氏は、人工知能AIについて長年取り組んできました。そのなかで人間の脳について非常に研究されたそうです。実体験を交えてのユニークな講演では「人の脳には2種類しかない」という話に興味をもちました。

「指先型(プロセス型)」と「手のひら型(問題解決型)」の2種類ということですが、どのように見分けるのか？意外にも、ペットボトルの開け方でわかるみたいです。開栓するとき、無意識に「指だけの力で開けている」または「手のひらをつけて開けている」、その違いでわかるみたいです。

脳の種類のどちらか片方だけでは偏りが出て、さまざまな場面での問題解決・対策に時間がかかってしまいます。2つの型で補っていくことが、さまざまな問題をスムーズに解決していくための一番よい方法だと、学ぶことができました。

私自身は「手のひら型」でしたので、「指先型」を見つけるように常に心がけていきます。皆さんも、周りの方のペットボトルの開け方に注意してみてください！（納得できます）

もう一つ「話し方」について、参考になる話がありました。それは「まず相手に共感してあげてから、自分の意見を話す」ということです。

普段の会話では、自分のことや結論を先に出してしまいがちです。まずはじめに共感してから話すことで、相手の脳が非常に気持ちよくなって会話がスムーズに進むそうです。これを実行するには自分自身の忍耐がとても必要のことでしたが、これからまだまだ続く子育てにおいては非常に大切なことだと思い、ぜひ心がけていくべきだと胸に落ちるお話でした。

講演会終了後、閉会行事が行われました。広島大会においての大会宣言が会場全体の盛大な拍手をもって承認され、第71回日本PTA全国研究大会 広島大会は幕を閉じました。

今大会のテーマ「変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～ 広島から全国へ」を発信できた大会であったと思います。この気持ちや経験を一人でも多くのPTA会員へ届けるため、長野県PTA連合会としての役割とあり方を再認識した素晴らしい大会でした。

(長野県PTA連合会 副会長 山田直幸さん)



広島駅のデジタルサイネージ



記念講演の様子



長野県各地から参加した役員の皆さん

今日学校に行きたくない・・・

そんなとき
あなたならどうしますか？

- ▶ 現在作成中の12月発行予定の長野県PTA新聞では“学校に行きたくない”ときの「子ども」と「親」の気持ちや心がけについて特集します。
- ▶ 子どもと親の本音をお聞きするために匿名アンケートを募集しております。ぜひ親子でご回答くださると幸いです。
- ▶ アンケートは **10月15日(日)まで** 受け付けております。期間が短いですが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

▼PDFはタップでアンケートへ移行します



保護者用
アンケート



小学生用
アンケート



中学生用
アンケート

長野県PTA新聞
全面リニューアル！
現在作成中
12月発行予定

令和7年度
日本PTA関東ブロック研究大会
長野大会
開催に向け実行委員会活動中！

発行 長野県PTA連合会
編集 情報発信部

✉ office@pta-naganoken.net
Tel : 026-235-4361

県P通信(不定期発行)は、郡市PTA連合会を通じて各単位PTAへお届けし、長野県PTA連合会の活動をお伝えしてまいります。

PDFはタップで
アクセス！



公式HP

Facebook

